

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	内閣総理大臣オーストラリア科学奨学生の派遣		事業開始年度	昭和43年度	作成責任者	
担当部局庁	初等中等教育局		担当課室	国際教育課	国際教育課長 中井 一浩	
会計区分	一般会計		上位政策	国際交流の推進		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—		関係する計 画、通知等	教育振興基本計画(平成20年7月1日 閣議決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔 に。3行程度以内)	国際化が著しく進展しているため、高校生段階における国際交流を通じて、広い視野を持って異文化を理解し、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく態度を育成する。					
事業概要 (5行程度以内。別 添可)	ノーベル賞クラスの一線級の科学者から最新の科学知識に関する講義を受け、他国からの参加高校生との交流を深めることを目的とした、シドニー大学内物理学財団が主催する「高校生のための国際科学学校」事業の派遣高校生(オーストラリア科学奨学生)を文部科学省が決定し、当該派遣に要する旅費を支給する。					
実施状況	文部科学省が選考・面接後、合格した高校生をオーストラリアへ科学奨学生として派遣した。 ○平成21年度 ・奨学生 : 8人 ※ 隔年事業					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	1.7	1.4	1.5	—	1.5
	執行額	1.1	0	0.9		
	執行率	64.7%	0.0%	60.0%		
	総事業費(執行ベース)	1.1	0	0.9		
自己点検	支出先・ 使途の把握 水準・ 状況	国の旅費等支給に係る規程にのっとり、適切に旅費支給を行っている。				
	見直しの 余地	平成23年度予算については、平成21年度の執行率を踏まえ、見直しを行う予定。				
予算 監視 の 所 効 率 化	1. 事業評価の観点:この事業は、国際交流の推進を図るため、シドニー大学内物理学財団が主催する「高校生のための国際科学学校」事業の派遣高校生を文部科学省が決定し、ノーベル賞クラスの一線級の科学者から最新の科学知識に関する講義を受け、他国からの参加高校生との深めることを目的とした当該派遣に要する旅費を支給する事業であり、長期継続事業の観点や 予算の執行率の観点から検証を行った。 2. 所見:この事業は、昭和43年度から続く長期継続事業であるが、今後も高校生の国際交流の推進を図るため引き続き実施すべき必要な事業である。しかしながら、これまでの事業の成果・必要性・有効性についての検証を行うことにより、縮減すべきである。 また、航空運賃の低価格化、派遣者数の減により、平成21年度予算において不用が生じているため、今後の予算の執行実績を的確に把握し、予算との差異の要因等を十分精査しつつ、予算を縮減すべきである。					
補 記						

A. 文部科学省
0.9百万円

外国旅費：0.9百万

シドニー大学内物理学財団が主催する「高校生のための国際科学学校」事業への派遣高校生を選考・決定し、派遣を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補足
する)
(単位:百万円)

A 文部科学省					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
外国旅費	派遣高校生国際航空運賃	0.9			
計		0.9	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額が
 支出されている者
 について記載す
 る。使途と費目の
 双方で実情が分
 かるように記載)